

TV会議システムを使った高大連携遠隔授業の取組

山梨県立身延高等学校



初顔合わせ
(二宮准教授)



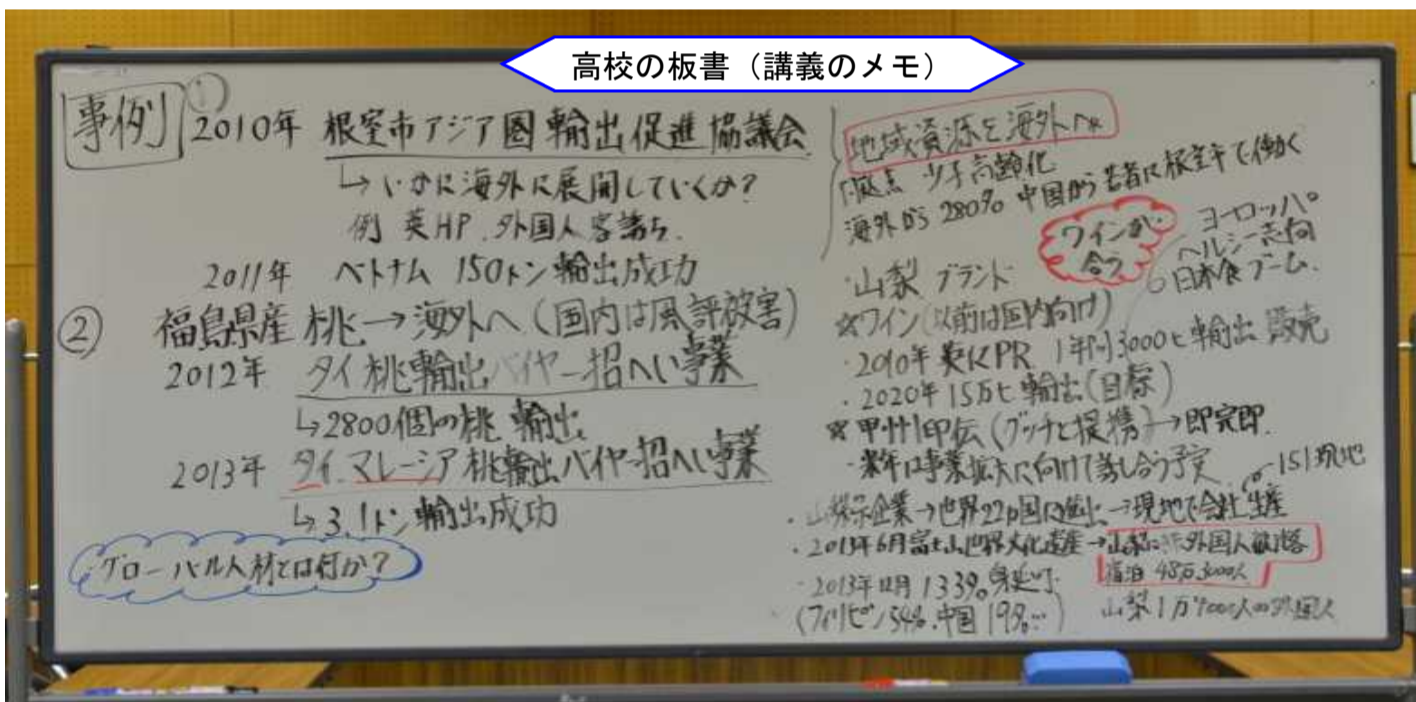
五味教諭
(授業担当)

大型TVモニター
(張兵教授)

マイク



講義内容
をメモする



高校の板書 (講義のメモ)



大学側の板書



TVカメラ

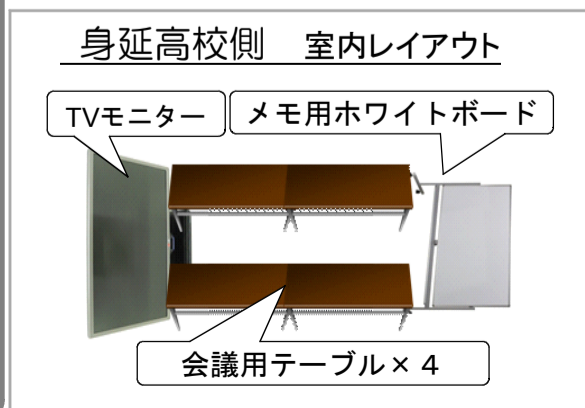
MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL

システム構成図 (身延高校側)

身延高校側 TV会議システム(常設)



身延高校



総合教育センター



県立大学飯田キャンパス

実施内容と回数

回数	内容
第1回	「ガイダンス」
第2回	「未来の私、未来の身延（峡南地域）」
第3回	「田舎のイトコ、どう生かすのか」
第4回	「身延（峡南地域）がりのままの身延（峡南地域）であり続けるためには」
第5回	「世界と日本・山梨のつながりを考える」
第6回	「発表」

目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

生徒の感想

普段は考えることがない、自分の住んでいる地域を考えることができた。また、住んでいる地域のおかれている状況などを知ることができ、地域を活性化するためには、どうしていくべきか考える力がついた。

これからの自分たちに必要な授業だと感じた。



自分の住んでいる地域に対して考え、イメージが変わった。もっと、自分の住んでいる地域のことを詳しく知りたいと思った。また、私が住んでいる地域ならではの良いところを発見できた。

大学の先生や学生の方と交流することができて、大学の雰囲気などを感じることができて楽しかった。



私たちの住んでいる地域の良いところを知ることができた。また、峡南地域だけではなく、山梨の活性化に向けての活動も知ることができて良かった。



平成26年度のまとめ

身延高校の選択授業「現代社会研究」（選択者2年次生6名）と県立大学国際政策学部で、地域活性化策を考える課題解決型の連携授業を6回実施した。地域の将来を考える人材を育成する目的のもと、テレビ会議システムを使用して行った。

生徒はテレビ会議システムを使用した授業を受けたことがなく、授業を始めるまでは戸惑いを感じていた。しかし、最初の授業で二宮准教授とアシスタント大学生が来校して、顔合わせをしていただいたことで、生徒はリラックスして授業に臨めたようだ。

また、この授業が少人数授業であったため、授業内容を工夫することで、単に地域活性化策を考えるだけでなく、「主体性をもって問題を発見し、解決策を見いだしていく積極的な授業」や「生涯を通じて学び考えることで課題を乗り越え、人生を切り拓き、よりよい社会を形成することのできる人材育成の授業」の可能性が示された。